

# 湯中通信



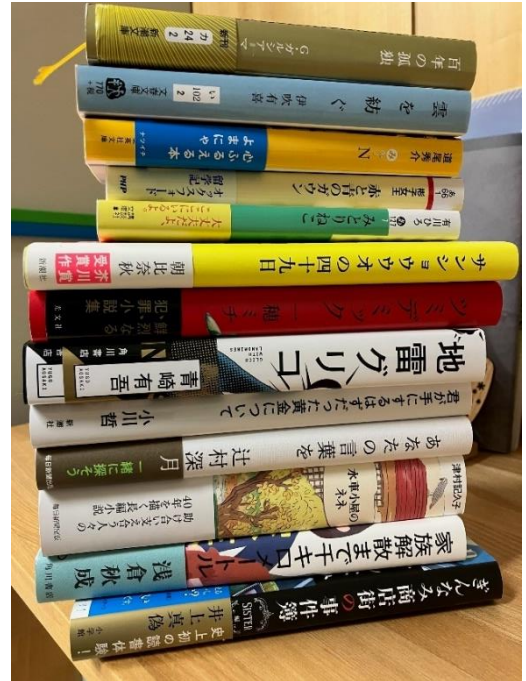
校長室だより特別号  
令和6年12月4日(水)  
発行：魚沼市立湯之谷中学校

読書の秋(もう冬…)本の紹介号

読書のメタファーとして、「作者や主人公、登場人物との出会い」とか「普段の自分とは異なる人生や視点に触れる心の旅」などがよく使われます。現代はスマホやタブレット等を用いれば、知りたい事柄はすぐ手に入る高度に情報化された社会です。しかし、「出会い」も「旅」もある程度時間をかけて、相手や自分に向き合う必要があります。それが充実感や想像力、寛容性といった内面的な成長を醸成するのではないかと思います。

最近話題性のある小説や随筆を中心に、買ったり借りたりして年間30冊程度の本を読んでいます。4月以降に購入した本は、少しでも生徒の皆さんから関心を持ってほしいと思い、図書室に寄贈しました。(→)

さて、次に紹介するのは湯之谷中学校の図書室に配架されていて、今年4月以降読んだ本のレビューです。借りた本ですが、皆さんの歡心を買うべく工夫しながら簡潔に書き記しました。そして読んだ(もう読み終わった)人はぜひ、感想を教えてください。(校長：栃倉 敦)



本日は大安なり 辻村 深月

■ 4組の結婚式にまつわるお話。どれもが「非常事態だ、さあやるぞ」って感じ。大安なのにこれじゃあ、「勘弁してよ」ってなるし、防災ベルも鳴るわけだ。でも魔女は女神だったし、ピアスの男は求めていたストッパーだった。面白くて愉快的なエンタメ小説。

ほたるいしマジカルランド 寺地はるな

■ 明滅するような、でも確かなパワーをもらった。「それがわたしなので」って、本当に潔さがまぶしい言葉に感心した。悩み、ひがみ、思い込みでモヤモヤした心にストーンと落ちた。「がんばってるやん」もマジカルワードだ。

コーヒーが冷めないうちに 川口 俊和

■ 読んでいて「チグハグギクシャク」なんかリズムが狂う。それって三つの大きな古時計のせいなのかな？フニクリフニクラと白いワンピースの女(幽霊)に引っ張られて、コーヒーを注文するのが人情・・・おかわりも「お願いします」

成瀬は信じた道を行く 宮島 未奈

■ 「なるよりも～せまほしなのね～あさぼらけ～かの成瀬にて～りは明らかに～」短歌で感想をまとめてみた。「成瀬は天下を取りに行く」の第二弾。夏休みは書店ですごく売れてみたい。読めばやっぱり楽しいし、琵琶湖クルーズをしたくなる。

レーエンデ国物語 多崎 礼

□ とにかくにもプリムラの豹変ぶりに衝撃を受けた。天使と悪魔は表裏一体なのか、まるでホノグラムのように。我が子を思う母親の本能について思いを巡らす。ヘクトルとトリスタンは鋼の肉体から命の炎がボーボー出てる感じ。走れメロスみたいだ。(今3巻まで入っています)



鍵のない夢を見る 辻村 深月

□ 違和感なくテンポよく、絶妙にデフォルメされた女子たちの「らしさ」が描かれる。潜在意識まで言語化されて途中で苦しくなる。ハッとするような心理描写がうますぎる。あと、女子から男子はこんなふうに思われてるんだって思うと、胸が痛む。

◆次は、図書室担当 桜井 成美 からの紹介です。



その本は 又吉直樹/ヨシタケシンスケ

□ “その本は、ページをめくるときの「ペラ」という音がちょっと早いです。まだめくってないのに「ペラ」と音がすることがあって腹がたちます”世界中のめずらしい本を探し、その本の話聞かせるよう王様に命じられたふたりの男。ふたりは旅に出て探してきた珍しい本の話王様に語り始めるが・・・泣けて笑えて胸を打たれて、ラストはさすがのオチが待っています！

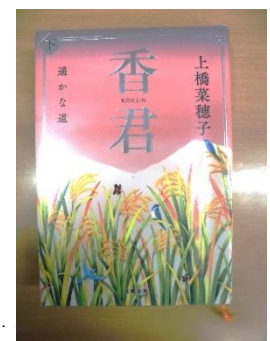
わたしの幸せな結婚 顎木あくみ

□ 名家に生まれた美世は、実母が早くに亡くなり、継母と義母妹に虐げられて育った。嫁入りを命じられたと思えば、相手は冷酷無慈悲と噂の若き軍人、清霞(きよか)。初対面で辛く当たられた美世だったけれど、日々過ごしていくうちに少しずつ心を通わせていく。映画化もされた、話題の作品です！近日続編を入荷予定！

◆そして、国語科 中川 恵名 からの紹介です。

香君(上・下) 上橋菜穂子

□ 「一飢えの雲、天を覆い、地は枯れ果て、人の口に入るものなし」香りで万象を知る少女・アイシャが立ち向かうのは未曾有の虫害。米と虫と人の生存競争の行方はいかに?! 先が知りたくてたまらなくなる・・・上下巻です。



◆最後に、国語科 齋藤 岳美 からの紹介です。

ライオンのおやつ 小川 糸

□ 33歳の若さで余命を告げられる海野 雫の話。残りの人生を瀬戸内海にあるホスピス「ライオンの家」にやってくる。ライオンの家では毎週日曜日に「おやつの日」があり、入居者は食べたいおやつのエピソードを書いてリクエストをする。ライオンの家でたくさんの人と出会い、生きていることに感謝し、今を大切にしたいくなる物語。

